

会報
56号

会報

函館の歴史的風土を守る会会報
No.56 H9.4.1

発行所 函館の歴史的風土を守る会
事務局 函館市五稜郭町43-9
五稜郭タワー株式会社(中田)
電話(0138)51-4785
印刷所 (有)三和印刷 電話45-0845



第19回 函館の町並みを美しくする、 新春チャリティ・パーティー盛大に開催される!

「歴風会」が主催する「第19回函館の町並みを美しくする、新春チャリティー・パーティー」は、去る2月21日午後6時半から、300名を越える参加者で賑やかに五島軒本店で開かれた。

対馬会員による恒例新春日舞で開幕し、島崎実行委員長が「街づくりの基本は人づくり、生涯学習を通じて健康で美しい人づくりに役立ちたい」と挨拶し、第14回歴風文化賞の贈呈式が行われた。

今年は別記(次頁)の通り、保存建築物3件、再生保存建築物1件が歴風文化賞を受賞し、市民の心に深い郷愁を抱く原風景にトラピスト修道院の並木路(上

磯町)を選定し、団体部門でボランティアでガイド活動する2団体が受賞した。

佐藤やよ子さん(一会の会)が、「原風景宣言文」を朗読。函館市の「歴史的町並み基金」として、15万円の目録が浜島会長より、金子隆敏氏(市・都市建設部長)へ手渡された。

続いて、ビデオによる受賞建造物の紹介と、7月当市で開催される「五稜郭サミット」の紹介が和田氏(市・国際交流課長)よりあった。

尚、アトラクションは松田智美氏以下4名で構成する「シルバーナイツ」のPOPS系音楽を鑑賞した。



原風景宣言

トラピストの並木路

『灯台の聖母トラピスト修道院』

（上磯町当別）

明治29（1896）年、9人のフランス人修道士等により、修道院が建設されて101年目を迎えた。

風雪1世紀の^{たたず}佇まいは、四季を通じ、多くの人に愛されている。

正門に続く^{うっそう}鬱蒼とした、杉とポプラの並木路からレンガ造りの^{しろうしや}瀟洒な建物が見えかくれする風景は荘厳である。

並木は昭和35年頃植樹され、昭和63年北海道の環境緑地保護地区指定を受け、平成8年、人間道路会議賞を受賞した。

今後一層、保護育成されることを切望し、'97年《原風景》として宣言する。

歴風文化賞団体



団体 ^{いちえ} 一会の会

代表 四戸 幹子さん

昭和60年結成以来、函館の歴史と感動を自分達の言葉でガイドしている。



団体 函館ボランティアサークル

代表 石塚 律子さん

昭和59年結成。日本で第1号の登録実績。手作りガイドは好評を博している。

保存建築物



保存建築物 中田米穀店（万代町14-30）
中田 幸一氏

明治38年建築。切妻妻入トタン葺木造平屋造。伝統的な土間形式の商家造。「町家」の原型を留めている。

保存建築物 吉田紙店（大手町11-10）
吉田 幸平氏

大正元年建築。寄棟平入トタン葺2階建店舗併用住宅（右側店舗部分は改装）。



保存建築物 野崎邸（本町29-6）
野崎 富蔵氏

大正12年建築。木造平屋建、和洋折衷様式。外壁は洋風下見張り、玄関は母屋屋根庇。

再生保存建築物

再生保存建築物 八戸邸（上湯川町31-10）
八戸 千代一氏

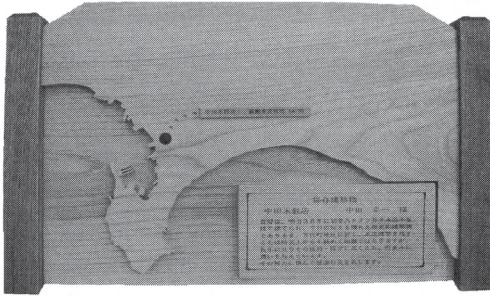
昭和2年建築。寄棟茅葺木造平屋建。平成8年に屋根の茅を差替。



＝歴風文化賞選考基準＝

- ① 建造物自体の貴重性。
- ② 持ち主が長年保存への努力を続けている。
- ③ 景観への寄与。
- ④ 歴史性。
- ⑤ 地域の町並みや社会全般へ波及効果大きい。
- ⑥ 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である。

スタッフ



木製の賞状楯



実行委員長挨拶



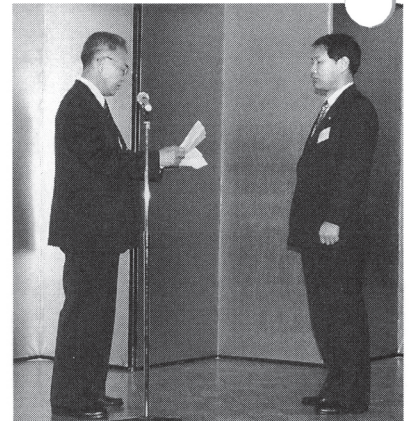
浜島会長挨拶



原風景宣言



受賞者の謝辞



町並み基金贈呈

協賛商社のみなさま
ありがとうございました。

チャリティーパーティーの御協力商社尊名

- ・西武デパート・テーオー小笠原
- ・五島軒・カメラのニセコ
- ・カメラのタケダ・ロープウェイ
- ・五稜郭タワー・カネマル・不二屋
- ・昭和製菓・ナシオ・文雅堂・たねざわ
- ・コカコーラ・はこだてわいん
- ・大槻食材・第一食品・^{サッポロ}ウエシマコーヒー
- ・平方亮三・吉村富士夫・対馬 誠
- ・その他

(順不同・敬称略)

歴風文化賞を受賞して

大手町 吉田紙店 吉田 幸平

この度は、私共に栄えある歴風文化賞を頂き誠に有難う御座居ました。昭和三十五年以来、歴風会様の数々の業績を拝見し、函館の街並みの美しさもこんな方々の御苦勞の上に成り立っている事を今、考えさせられました。

私は、保存建築物も団体活動も大切ですが、原風景として、自然や人工的にとらわれずに道南函館独特の風景を評価されている事に意義深さが伺われると思います。最近、他都市の建築物の中に、例えば銀行、駅等に多く見られるユニークで復古調なデザインの建物が目に映ります。ガラス張りのビルが多い街の中でも、何とも心休まる感じです。開発も保存も大切に、良く調和し街並みや環境を美しく保っていく事だと思います。私の所は古い家と云うだけで逆に美しい街並みを阻害して皆様に御迷惑を、おかけしている事を心苦しく思います。今後共、歴風会の御活躍と御発展を祈念し、御礼と致します。



金子部長の謝辞と開宴



和田課長のサミットPR



抽選風景



副実行委員長挨拶

ごあいさつ

実行委員長 島崎 啓子

お礼の言葉

函館の歴史的風土を守る会会長 浜島 国四郎

先日、「海峡の光」で芥川賞を受賞された辻仁成氏の『人において1番多感な中学から高校の時期を函館で過ごしたことが、その後の人間形成に大きな影響を及ぼし、辻文学の基底にある』と言う講演を聴いて、深く感動しました。

石川啄木の詩でもわかるように、函館の古い街並みと豊かな自然は語らずとも心に伝える何かがあるのでしょうか。

梁川町にダンススタジオを開校し、今年で15周年を迎えた私も、ここ函館に生まれ、育ちました。函館市民であることに誇りをもち、歴史を大切にするのは勿論、これからの函館の街がよりステキな街になりますよう、街づくりの基本は人づくりからと言う私の目指す生涯学習を通じて、健康で美しい人づくりに役立ちたいと考えております。

今年10周年を迎える史跡五稜郭を舞台とした野外劇は、函館の歴史の伝承のみならず、21世紀を担う子供達はその歴史を体験出来るという、すばらしいステージとして広く市民に評価されて来ました。

その五稜郭をテーマに、本年7月、第1回世界星形城郭サミットが開催されます。今や函館は世界から注目される町であり、国際性の要望も高まり、函館市民にとって、改めて函館文化にふれる絶好の機会になると思います。

辻氏の言葉にもありましたが、函館が「日本のベネチア」として世界に向けて文化の発信地となるよう、私も「函館の歴史的風土を守る会」の一員としてがんばりたいと考えております。

本日は誠にありがとうございました。

島崎実行委員長・中野副委員長のもとで、多くの皆様のご参加をいただき、恒例のチャリティー・パーティーを開催出来ましたこと、厚く御礼申し上げます。

日頃、何かと「歴風会」の活動にご尽力いただき、重ねて御礼申し上げます。

扱って皆様ご承知の通り、私達の大好きな愛する函館の「まち」は、そこに住んでいる市民の並々ならぬ思いと、苦勞に支えられて今日を迎えております。「歴風会」として、その様な方々に心からの感謝の気持ちをこめて「歴風文化賞」を贈り、その功を賛えて参りました。

回を重ねること14回、実に55棟の建造物と14団体を顕彰して参りました。

今年も、表記の方々に、皆様のお心を添えて贈らせて頂くことが出来ましたこと、深く感謝申し上げます。

末筆乍ら、パーティーに会の主旨に賛同され、御協賛品をいただきました各商社の皆様に深甚なる謝意を表します。

尚、本日を記念し、私達会員一同の微意を市の町並み基金に贈呈したことを申し添えてお礼の言葉とします。

〈論壇〉 市民精神と「歴風会」

中野 豊
（平成9年 副実行委員長）

近年、観光シーズン中の函館では、市民ボランティアの函館ガイドが活躍しています。函館に住み、そこで生活している市民が、函館に来訪した多くの観光客に自分の生活体験を通じた新鮮な感覚で函館の魅力を伝えています。このボランティア活動は、函館の街と市民生活、さらには、私自身が関わっている観光を考えると、何か大事なことを示唆しているように思います。

21世紀を目前にした現在、多くの市民は、函館が観光都市としてあることを理解しているように思います。また、最近では積極的に産業としての観光が議論されるようになってきています。このようなことに伴って、一方では、函館の歴史や文化についての市民の理解の深さが、ますます重要



活躍するボランティアガイド

視されてきたように考えます。市民のひとりひとりが、自らの生活基盤としての函館の街に関心を持ち、その佳さを知り、その佳さを一層拡充させて日々を生きることが重要になっているのではないかと思います。このような地域特質に根ざした市民レベルの生活環境の充実を実践してきたのが「歴風会」の略称を持つ「函館の歴史的風土を守る会」であったように思います。

この「歴風会」が創設される直前の昭和53年頃の函館は、首都圏や本州主要都市と道央圏を直結する航空路線の拡充によって、かつての北海道と本州を結ぶ海路中心時代の交通の要衝としての位置を次第に失いつつあり、また基幹産業であった北洋漁業や造船工業も年を追って衰退していった時期にありました。したがって、市民の生活実感には、地方都市である函館を発展させ、長く支えてきたこのような基幹産業の衰退に対する失望感があり、それは、とすれば街に対する愛着すらも失いかねないものであったと思います。

このような時に開道百年を記念して道央圏の野幌に

新規造成された「開拓の村」に旧渡島支庁庁舎の移転が札幌で計画され、発表されましたが、私を含め多くの函館市民が、その建物の保存状態から、その歴史的、文化的価値を知らなかったと言っても無理のないことだったと思います。「函館の歴史的風土を守る会」の創設は、この旧渡島支庁庁舎を野幌に移転させず、この函館の地に長く保存したいという切実な市民の願いを基にした活動が契機となりました。このような

市民の旧渡島支庁庁舎への視点を、函館の町並み全体にまで視野を広げ、自分達が現に生きているこの函館を見直し、その佳さを将来につなげようとして「函館の歴史的風土を守る会」創設に心を砕いた人々のひとりが、田尻聡子氏でした。田尻氏の当時の投稿文は、今、改めて考えるとき、歴史

的な重みがあるように思えてなりません。

昭和51年、首都圏内の小都市で45年間を過ごした私は、思いもよらない転身で函館の人となり、この街に住むことになりましたが、「函館の歴史的風土を守る会」創設の端緒ともなったこの旧渡島支庁庁舎保存活動は、'函館居住間もない頃のことでした。

当時、観光とは何かも知らずに現在のシゴトに関わることになった私は、「歴風会」事務局長を長く勤められ、今や故人となられた工藤光男氏から、観光の言葉のそもそもの由来やその真の意味、また、函館の現状やこれからの函館について度々お聞きする機会に恵まれました。このようなことなどを重ねて、少しずつ私なりの函館像を作り上げて来たように思っています。

私の函館居住が始まった頃、函館市内の各所には、佳き時代の雰囲気を持つ建築も残されていましたが、それらは、すでに生活の場としての役割を終え、住人もなく、なかば放置されているように映るものも決して少なくありませんでした。しかし、そのような時

期でさえ、函館には年間約250万人の観光客が訪れていました。「お客さん、函館には、何にもねえべさ」とタクシーの運転手さんに言われたと観光客から伝えられたのもこの頃でした。何か、街全体が自信を失っていたように思います。

ところが、このような時期に「歴風会」が創設され、その活動が現在までの約20年間に亘って継続されて来た事実は、私に函館の街に住む人々が間違いなく生きていたことをまざまざと教えてくれました。自分の住む街の歴史や文化を知ることなく、また、その佳さを確信し、将来につなげようという願いなくして、この街が活かされているとは、このようなことなのではないかと思ひます。

そこに脈打っているきのうから明日へ希望をつないで生きることこそが、函館の市民精神なのだと、知らされた思いがします。そして、この強靱な市民精神は、明治以来の度重なる大火から立直ったことにより市民の中に培われたものではないかと思ひます。

市民のこの強靱な蘇生力は、函館の歴史的な精神風土なのだという思いがします。

観光は、このような地域の歴史や文化を基盤とした健康的な市民生活の活力と無縁なものとは思いません。

むしろ、それなくしては、これからの観光は成立しないのではないかとさ思ひます。市民が誇り得る街であってこそ、観光客を魅了して止まないものなのではないかと思ひます。したがって、観光は、その街に住



歴風会のシンボル、旧北海道函館支庁庁舎

む人々の市民精神と生活に深く結びついているのだと思ひます。

私達の生活基盤としての函館は、かつて、諸外国の文化がいち早く流入し、その影響を色濃く残し、近代文化発祥地としての歴史的環境を将来の資産として持っています。これらを「歴風会」の活動を通して、函館の街づくりの原点として大事にしなければと思ひます。

(五稜郭タワー(株) 社長)

五稜郭 Q&A

一口上ー

「五稜郭」を「遊郭」と間違えた笑話があったと云う。今では『広辞苑』にも載っているが、意外なところに、意外な話もあるようだ。

Q 1：正式な呼び方は？

A：正しくは「亀田役所土塁」と呼ぶ。「柳野城」（1面のネコ柳が多く「柳野」と言っていた）と呼ばれたが、（星の）塁形から五稜郭名が定着した。（函館道南大事典 P173）

Q 2：同じ五稜郭の竜岡城と比較すると？

A：	<五稜郭>	<竜岡城>	
○ 築造月日	安政4年～ 元治元年 (1864)	文久3年～ 慶応3年 (1867)	3年早い
○ 星形1辺の長	297m	{ 東 - 150m 南 - 145m	2倍
○ 面積	郭内...178,600m ² (堀 52,000m ²)	18,612m ²	9.6倍
○ 堀の延長	3,500m	678m	5.1倍

○ 土塁の底辺	30m	6.85m	4.4倍
○ 土塁の高さ	4.5m	1.5m	3倍

（もう一つの五稜郭 P236）

と竜岡城は五稜郭の約10分の1の大きさである。

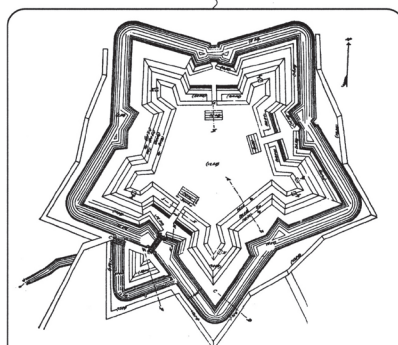
因みに竜岡城は信濃南佐久郡田野口村字竜岡（現白田町）に松平乗謨が築城し、五稜郭は諸術調所教授の武田斐三郎が設計監督した。

（日本城郭大系・もう一つの五稜郭）

Q 3：五稜郭の解体材はいずこへ？

A：明治5年5月、五稜郭庁舎が解体され、それが札幌に搬出されて、「開拓使」に使用されたり、函館税関や官舎（時任町）に再利用された。（日本城郭大系 P174）他に明治4年に焼失した「山の上町遊郭」の代替地として「蓬萊町遊郭」の建造に払下げられたとの話もある。

（函館むかし百話 P234）



五稜郭平面図（日本城郭大系）

トピックス

トピックスⅠ

去る2月21日付函館新聞で、五島軒本店旧館（末広町4-13）が、文化財登録建造物として、札幌市資料館と共に答申された事が報道された。

歴風会副会長である五島軒社長若山直氏に五島軒の由来や指定について聞いてみた。

登録制度は、昨年10月の文化財保護法改正で導入された制度で、国や地方公共団体の文化財制度を補完する。明治以降の近代建築物（築後50年以上）が対象となり、外観を大きく変えない限り、自由に活用出来る、いわば「ゆるやか」な保護措置である。昨年11月に118件、本年2月に66件が答申されており、五島軒旧館は本道第1号の登録文化財となった。

『五島軒』店名の由来については、初代若山惣太郎が明治12年ロシア料理とパンの店を開店した時のコック長五島英吉（五島の出身、明治19年大火後横浜へ引揚げ）の「五島」に起因しているという。

明治19年、フランス料理店となり現在に至るが、その間4度大火に被災した。現在の建物は、函館最大の大火といわれ



トピックスⅡ

◆『町並みまちづくり物語』西村幸夫著
（東京大学教授）古今書院
（'97年2月15日発行）

歴風会が紹介されました。北海道から沖縄まで、全国の町並み運動が紹介され、小樽と函館がとりあげられております。

◆『ウインズ』（日航機内誌）3月号
・函館洋館今昔物語—として17頁にわたり特集され、「歴風会」や「元町倶楽部」も紹介された。

トピックスⅢ

◆昨年講演会を開催した「城郭史」研究家のモリソン博士（カナダ・ハリファックス〈セントメアリーズ大学〉）より当会宛に「写真集」と手紙が寄せられました。

ROGERS' PHOTOGRAPHIC ADVERTISING ALBUM.

グループだより

- '96.11. 8 『チンチン電車』 No.16
 - 事務局移転（コーヒーハウス チボリ）
 - 建設省「路面電車」の支援制度創設ニュースetc
- '96.10 『まちなみ、まちづくり、寺内町トリップ』
 - 寺内町ウォーク
 - ちょっと昔の生活道具展
- '96.12 『から』 No.13（函館からトラスト）
 - 開港5都市景観会議函館大会を終えて他
浜島国四郎
 - がんばれ函館のまちづくり
- '96秋号 『Ponte』（勝鬨橋をあげる会）
 - ライデンの可動橋他
- '96 『すみだ川』
- '96. 9.10 『町並み-私たちのふるさと伏見』第25号
 - 住民の力で景観に配慮したマンションに設計変更—他
- '97. 1.26 『きーすとん』号外
- '97. 1.26 『旧小熊邸ニュース』第2号
- '97. 2. 『おおの』 No.53

インフォメーション

- ◇'97. 4.26（「旧西警察庁舎」に関する勉強会）
 - PM14:00 現地見学会
 - PM15:30 勉強会（於聖ヨハネ教会）
- ◇4月下旬『函館の方言について』学習会 講師 久保孝夫先生（大妻高校）
- ◇'97. 5.23（第20回全国町並みゼミ村上大会）
 - 5/23～5/25 新潟県村上市三之町

おねがい

会員の皆様へ
おかげ様で、歴風会は来年、20周年を迎えます。記念事業や記念誌の発行で、色々と会務の幅が予想されます。広く英知を結集して、更なる会の新しい時代を築くために、是非会員皆様の御協力をお願い致します。

平成9年3月

函館の歴史的風土を守る会会長 浜島 国四郎

事務局日記

- '96.11.25 5都市会議追加分 4万円支出。
- 12.12 会報55号発行
- 12.14 第1回実行委員会〈於五島軒〉P券配布
- '97. 1.13 第6回運営委員会〈五稜郭タワー〉
- 1.17 「旧西警察署庁舎耐力調査報告書」開示あり
- 2.16 第2回実行委員会 P券確認、景品値付け
- 2.18 古都保存財団よりアンケート
総理府よりアンケート
- 2.21 第19回チャリティーパーティー〈於五島軒〉
実行委員長 島崎啓子
副実行委員長 中野豊
- 3. 4 全道景観会議〈京王プラザホテル札幌〉
- 3.15 古都フォーラム〈草月ホール（東京・赤坂）〉

編集後記

- ◇お陰様で無事チャリティー・パーティーも終了。
- ◇今年も、多数の参加者に会員一同深く感謝。来年の20周年をめざし決意新たに頑張ります。
- ◇「歴風文化賞」の「楯材賞状楯」は、新進からくり細工師、谷目基氏の製作による。
- ◇本号の編集に中野豊副実行委員長より玉稿を賜わり、写真は一会の会・石塚さん及び吉村・飯田・太田会員の協力によりました。以上。（落合記）